



2025年度 陸前高田プロジェクト実施報告

テーマ

「陸前高田市の歩みから持続可能な都市について学び、
地方都市が持続可能な都市となるために自分たちにできることを考えよう」
-- SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」の視点から --
《Rikuzentakata × SDGs × YOU》

参加者

立教大学14名、香港大学4名、米国よりスタンフォード大学2名、
カリフォルニアポリテクニク州立大学より2名、モンクレア州立大学より1名
計23名

実施日

2025年 7月12日	立教大学生のみを対象とした研修
8月23日	海外大学生合流、事前研修
8月24～28日	フィールドワーク@陸前高田市
8月29日	最終報告会

プロジェクト概要

立教大学および海外の大学からの参加者全員で岩手県陸前高田市を訪問し、4泊5日のフィールドワークを行いました。

陸前高田市では震災遺構や復興祈念公園、津波伝承館、再建した市内中心部の様子等を視察したほか、市内で事業を営む複数の方々にご協力いただき、これまでの歩みや現在の取り組みについてお話をうかがいました。さらにグループごとに地元のご家庭を訪問し、食卓を囲みながら交流を深めました。

最終報告会では、SDGs Goal 11「住み続けられるまちづくりを」の視点を軸に、フィールドワークで学んだこと、自分が暮らすコミュニティとの関連性、持続可能なまちづくりへの取り組み、自分自身が取り組むべきことなどについてグループごとに発表しました。

事前研修① 7/12(立教生のみ)

本プロジェクトに取り組むにあたり、各自の目標の共有、陸前高田市や東日本大震災について理解を深めるための下調べなど、現地研修に向けて準備を進めました。

事前研修② 8/23(@立教大学)

立教生と海外大生が初対面。アイスブレイクで打ち解けた後、SDGs Goal 11「住み続けられるまちづくりを」に関するトリビアや、現地研修において効果的な学びを得る考え方・姿勢をロールプレイを通して学びました。



現地研修@陸前高田市

Day1 [8/24]

現地研修1日目。上野から東北新幹線で一ノ関まで行き、バスに乗継いで陸前高田市内まで向かいました。津波の被害を伝える津波伝承館を見学後、現地コーディネーターの古谷様のガイドで復興祈念公園や防潮堤、奇跡の一本松、震災遺構である旧気仙中学校を視察しました。



この日の夜は、滞在先である箱根山テラスで地元の飲食店（鉄板焼き静流様）がご用意してくださった夕食を囲みました。その後、陸前高田市広田町出身の齊藤様をお招きし、震災を経験した中学生時代のお話などをうかがいました。



Day2 [8/25]

現地研修2日目。仮設住宅体験館を見学した後、語り部の菅野様から、当時の仮設住宅での生活についてお話をうかがいました。その後、バスに乗って広田町長洞地区にある「長洞元気村」へ。事務局長の村上様が震災当時住んでいた住居内を案内してくださりました。ランチは元気村の「なでしこ会」のお母さん達が用意してくださった郷土料理を味わいました。



午後は村上様と一緒に陸前高田市コミュニティホールへ移動し、災害時に「自分ならどう行動するか」を参加者同士で共有し理解を深める「クロスロードゲーム」を体験しました。その後はグループに分かれて民家訪問へ。各ご家庭がお迎えに来てくださり、参加者は緊張と期待の入り混じった表情で出発していきましたが、最後には別れを惜しむほどあたたかい交流の時間を持つことができました。



Day3 [8/26]

グループごとに市街地探索をした後、陸前高田市役所にて佐々木拓市長と面会をしました。その後企画部企画政策課 政策広報係の畠山様に、SDGs未来都市としての同市の取り組みをおうかがいしました。お昼は地域の交流の拠点である「りくカフェ」へお邪魔して、カフェの歩みをうかがいながら栄養満点のお弁当をいただきました。



午後はバスで今年開所したばかりの立教大学陸前高田サテライトへ移動。陸前高田しみんエネルギー株式会社の代表取締役 大林様に、地域内の経済循環を目指した新たな民間電力会社と再生可能エネルギーへの取り組みについておうかがいしました。また、市役所都市計画課でキャリアを積んだ後にほんまる株式会社の取締役となった永山様にもお越しいただき、「陸前高田の復興とまちづくり」というテーマでお話いただきました。



Day4 [8/27]

4日目は陸前高田市コミュニティホールをたずね、フィールドワーク中の朝食をご提供くださった「おかず屋 和笑輪」を営む橋詰様、鎌倉と陸前高田市にそれぞれ店舗を構える甘酒専門店「AMAZAKE STAND」の小西様、震災前から地域を見つめてきた株式会社東海新報社 代表取締役の鈴木様より、それぞれが地域に寄り添って歩んできたこれまでの取り組みや震災との関わり方等をおうかがいしました。



講話の後はバスで今泉地区の商業施設「CAMOCY」へ移動。CAMOCYでは同地区で古くから営まれてきた発酵をキーワードに、味噌を使用した定食や弁当のほか、パンやチョコレート等さまざまな商品を楽しむことができます。この日はその中のひとつ「DELI and BENTO gentil (ジャンティー)」のお料理を頂きながら、陸前高田市出身の皆さんとの交流会を実施しました。年齢が近いこともあり、どのテーブルも和気あいあいとした雰囲気で盛り上がっていました。



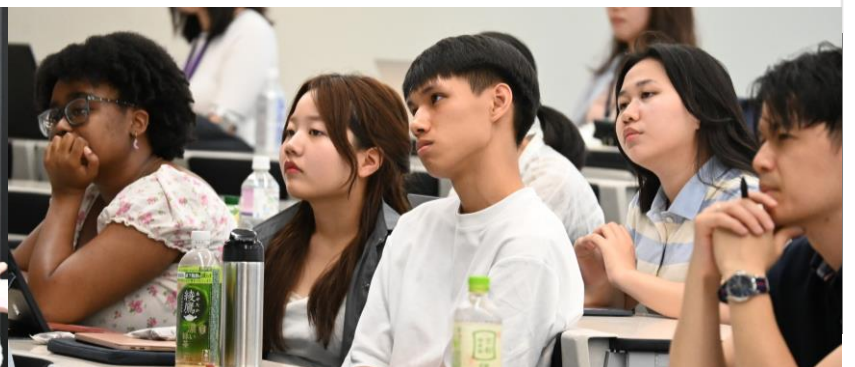
Day5 [8/28]

現地研修最終日は朝から陸前高田市コミュニティホールへ移動し、グループ毎に最終報告会の準備を進めました。参加者はこれまでの5日間で見たもの・聞いたこと・体験したことを振り返りつつ、自らのバックグラウンドとも重ね合わせて活発に議論していました。お昼は「カフェフードバー わいわい」オーナーの太田様が自慢の四季折弁当を届けてくださり、季節の地元食材を味わいました。最後に道の駅へ立ち寄ってお土産を買い、帰路につきました。



最終報告会@池袋キャンパス

プログラムの集大成である最終報告会を実施。自分たちの多様なバックグラウンドと比較しながら陸前高田市の取り組みを分析・考察し、そこから得られる学びと自分のこれからの役割について、日本語と英語の両言語でそれぞれ発表しました。フィールドワークでお世話になった陸前高田市の皆さんにもオンラインで参加いただき、各グループに対してフィードバックをいただきました。



Rikuzentakata: Building a Sustainable City for the Future Generation

陸前高田：未来の世代のための持続可能なまちづくり

Power of Life 命の偉大さ

Group 2

【グループ1】

「未来の世代のための持続可能なまちづくり」

インフラ・地域コミュニティ・ウェルビーイング・都市構想それぞれの切り口から陸前高田に存在する持続可能な仕組みを分析しました。さらにメンバーの故郷である日本の地方都市や中国と比較しながら、陸前高田市の取り組みに倣って信頼できる地域メディアの存在やグリーンモビリティバスなどの導入を提案しました。

【グループ2】

「命の偉大さ」

陸前高田市における①地域としての回復力の強さ・②人々の強い繋がり・③“生かされた”という感覚と次世代へ継承する使命感・④命への感謝・⑤未来に良い影響を与えるための持続可能な取り組み（プラスチック削減、雇用機会創出）を紹介し、それぞれが生み出すポジティブな影響について発表しました。

【グループ3】

「セルフレス社会に向けて」

セルフレス社会（自己利益だけでなく他者への思いやりや貢献を重視する社会）という概念を軸に陸前高田市と自分たちの所属するコミュニティを比較しました。また、学校を間借りしたワークショップの開催など、強固なコミュニティの繋がりを形成しにくい都市部でも出来ることを考え提案しました。

【グループ4】

「陸前高田学びの旅」

陸前高田市の人々の取り組みを通して、「小さな行動が大きな影響をもたらし、それが人々・地域の強い繋がりを生む」という良い循環の存在に気付きました。さらにもそのような循環を都市部でも実現可能なものにするヒントとして、SNSを活用した地域互助グループの形成を提案しました。

【グループ5】

「陸前高田の持続の輪」

持続可能な社会は人々の意識や行動によって形成されていくものであること、また、持続可能性とはただ環境に配慮した社会を作ることを指すのではなく地域社会の“遺産”を生かし続けることでもあると発見し、そのサイクルを維持することの難しさと重要性を自分たちの住む町と比較しながら紹介しました。

セルフレス 社会に向けて

Toward a Self-less Society

2025年度立教大学陸前高田プロジェクト
Rikuzentakata Project 2025

Rikuzentakata Learning Journey 陸前高田学びの旅

陸前高田市
City of Rikuzentakata



RIKUZENATAKATA SUSTAINABILITY CYCLE

Group 5

報告会終了後、オンラインで参加して
くださった陸前高田市の皆さんと



2025年度 参加学生の体験談

CLOSE UP RIKKYO

「陸前高田での出会いから学ぶ—2025年度陸前高田プロジェクト体験談」

フォトギャラリー

